

# 神戸市感染症の話題

事務局 神戸市保健所予防衛生課

〒650-8570 神戸市中央区加納町 6-5-1 Tel:078(322)6789 Fax:078(322)6763

## 結核

結核を含む感染症は感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)に基づき、医療機関からの発生届の情報が国のサーベイランスシステムに登録され、それにより、日本の感染症の発生動向調査が実施されている。令和 2 年 8 月 24 日、2019 年の「結核登録者情報調査年報」が厚生労働省から発表された。

([https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000175095\\_00003.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000175095_00003.html))

神戸市の 2019 年の結核登録者情報調査年報について、全国と比較して説明する。

1. 結核罹患率(人口 10 万人に対する新登録結核患者数)  
2019 年の結核罹患率は全国では 11.5、神戸市では 17.2、政令指定都市の中(東京都特別区を含む)で、高い方から 4 番目である。市内で最も罹患率が高いのは長田区の 33.6 で、次いで兵庫区 26.1、灘区 20.5、中央区 20.4 であった。一方、罹患率が低いのは須磨区 10.7、東灘区 13.5、北区 14.1 と 15 未満である。人口の少ない区では変動が大きい、旧市街地である 3 区(中央・兵庫・長田)の罹患率が高い傾向は続いている。(表 1、図 1)
2. 新登録結核患者数(1 年間に患者として届出られ登録された患者数、再治療を含む)  
新登録結核患者数は全国では 14,460 人で前年より、1,130 人(約 7.2%)減少している。神戸市では 262 人で、前年より、4 人(約

1.5%)増加した。2018 年に 14.6%減少したので、1 年ごとでは多少の増減がありながらも、患者数は減少していく過程と考えている。(表 2、図 1)

3. 喀痰塗抹陽性肺結核患者数及び罹患率(肺結核患者のうち、喀痰塗抹検査で陽性:喀痰をガラス板に塗って顕微鏡でみる検査で菌が見つかった患者数、及びその人口 10 万人に対する罹患率)  
喀痰塗抹陽性肺結核患者数は全国では 5,231 人、罹患率 4.1 で、神戸市では 80 人、罹患率は 5.3 である。昨年より 7 人増加し、罹患率で 0.7 増加したが、神戸市結核予防計画 2020 の目標の喀痰塗抹陽性罹患率を 7.0 未満とすることは維持でき、これをさらなる減少に転じていきたい。(図 2)
4. 結核菌の感受性検査結果  
結核菌は、薬剤耐性が誘導されやすく、3~4 剤の多剤併用療法が標準治療である。薬の種類が少なく、Key drug の INH,RFP の 2 剤が耐性であれば多剤耐性結核(MDR)である。新登録肺結核培養陽性患者は全国で 8,110 人、うち、薬剤感受性結果が判明しているのは 6,658 人、MDR は 44 人(0.5%)であった。神戸市ではそれぞれ 159 人、149 人、MDR は 0 人であった。感受性検査の結果の把握に努め、患者を支援している成果と考える。
5. 年齢階級別新登録結核患者数(図 3)  
新登録結核患者を年齢階級別にみると、

70歳以上は全国では8,838人で61%、神戸市では177人で67%をしめる。80歳以上は全国では前年より312人減少して6,028人(41.7%)、神戸市では9人増加121人(46.2%)であった。神戸市では過去の結核罹患率の高さの影響を受け、全国では減少している高齢患者において増加しており、その割合も多いことを示している。合併症や年齢による免疫力の低下により発病していると考えられるが、高齢者は症状のわかりにくいことがあるため注意が必要である。

6. 小児結核(0~14歳の新登録結核患者)

小児結核患者数は全国で38人、うち3人が重症の粟粒結核で2人は日本出生の0歳児(BCG接種歴無と不明)、1人が外国出生の12歳(BCG接種歴不明)、であった。神戸市では2017年に小児結核は3人みとめていたが2018年・2019年の小児結核は0人であった。しかし、2020年すでに1人小児結核例が治療中で、1年に1人くらいは発生していることになる。幸い重症例は2003年以降認めない。

7. 外国生まれ新登録結核患者数

全国では前年から126人減少し、1,541人となった。神戸市では28人と7人増加し初めて全新登録結核患者の10%を超えた。20代においては新登録結核患者18人中16人(89%)が外国生まれであった。全国でも20代の結核患者に占める外国生まれ新登録患者の割合は73.1%となっており、20代の結核患者の総数は45人の減少で851人となっているが、27%増加している。結核の罹患率が高い国で生まれ、大学・語学学校などの留学生として来日し、発病している人が多い。神戸市では20代留学生のうち約3分の1が入国2か月以内の健診で発見されている。今年新規の留学生はまだ入国できていないが、国が入国前結核スクリーニングを今年度から順次開始するため、今後は入国2か月以内の発病者は減ると予想される。結核は潜伏期が長いため、その後の健診の受診勧奨とそこで発見される人を速やかに

治療につなぎ、症状が出てからの受診で発見される人の減少を図る。

8. 潜在性結核感染症(結核菌に感染しているが、症状・所見はなく発病していない状態:LTBI)

全国では2019年7,684人で前年より、270人増加、神戸市では83人で前年より、23人減少している。接触者健診で発見し治療する人より、合併症の治療に際し、潜在性結核

感染症の治療が必要となる人が増加し、60歳以上が過半数を占めている。(図4)

表1 罹患率(人口10万人あたり)

年	2017	2018	2019
神戸市	19.7	16.9	17.2
東灘	14.9	7.0	13.5
灘	21.2	13.1	20.5
中央	21.5	25.6	20.4
兵庫	35.5	35.5	26.1
北	15.3	15.0	14.1
長田	28.0	24.0	33.6
須磨	23.1	15.7	10.7
垂水	17.9	15.2	14.3
西	15.2	15.7	15.8

例年10月1日推定人口で計算

表2 新登録患者数(人)

年	2017	2018	2019
神戸市	302	258	262
東灘	32	15	29
灘	29	18	28
中央	30	36	29
兵庫	38	38	28
北	33	32	30
長田	27	23	32
須磨	37	25	17
垂水	39	33	31
西	37	38	38

